受難

知っておきたいキリスト教のことば　(95)



2004 年に公開された映画「パッション」をご存知でしょうか。20 年以上前の映画ですが、世界中に大きな衝撃を与えました。

「パッション」という単語自体は、情熱や激情などという意味を持ちます。しかしキリスト教では、イエス様が受けた十字架の苦しみと死を意味する「受難」を指す言葉として、使われています。

イエス様は様々な場所で宣教し、多くの人たちに寄り添って歩まれました。しかし最終的な目的地はエルサレムであり、その地で逮捕され十字架の死を迎えることで、イエス様の地上での生涯は終わりを迎えたのです。

マタイ・マルコ・ルカの三つの福音書には、それぞれ三度ずつ「受難予告」が書かれています。イエス様は弟子たちに、ご自分が「エルサレムに行って、多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている」ことを伝えていきます。そのときの「～することになっている」というギリシア語の単語は、神さまの意思をあらわすものです。つまりイエス様の受難は、神さまのご計画だったのです。

イエス様は十字架につけられ、墓に葬られ、そして三日目に復活されました。その血とよみがえりによって、わたしたち一人一人は神さまの前に生きる者とされるのです。イエス様の十字架にはさまざまな意味がありますが、その一つに「十字架の血によって、わたしたちの罪が贖われた」というものがあります。罪を贖う犠牲となるために、イエス様は十字架の上で血を流されたのです。

そして復活し、世の終わりまでわたしたちと共にいる。そのことを可能にするために、神さまはイエス様を遣わし、受難へと向かわせたのです。

次回は「受肉」です。お楽しみに。